

渡邊和夫名誉教授年譜

1947年（昭和22年）

1月19日 渡邊善四郎・嘉代子の長男として東京に生まれる。

1953年（昭和28年）6歳

4月 千代田区立神田小学校に入学。

1959年（昭和34年）12歳

3月 千代田区立神田小学校を卒業。

4月 千代田区立一橋中学校に入学。

1962年（昭和37年）15歳

3月 千代田区立一橋中学校を卒業。

4月 早稲田大学高等学院に入学。

1965年（昭和40年）18歳

3月 早稲田大学高等学院を卒業。

4月 早稲田大学第一商学部に入學。

1969年（昭和44年）22歳

3月 早稲田大学第一商学部を卒業。

4月 早稲田大学大学院商学研究科修士課程に入學。

1971年（昭和46年）24歳

3月 早稲田大学より商学修士の学位を取得。

4月 早稲田大学大学院商学研究科博士課程に入學。

4月11日 母嘉代子死亡。

1974年（昭和49年）27歳

3月 早稲田大学大学院商学研究科博士課程を退學。

4月 小樽商科大学短期大学部講師。

1975年（昭和50年）28歳

6月2日 田中亀一・フザの次女久美子と結婚。

1976年（昭和51年）29歳

12月9日 長男和久誕生。

1977年（昭和52年）30歳

10月 小樽商科大学短期大学部助教授。

1979年（昭和54年）32歳

9月23日 次男和孝誕生。

1985年（昭和60年）38歳

10月 文部省在外研究員としてイリノイ大学に留学（1986年5月まで）。

1991年（平成3年）44歳

10月 早稲田大学より博士（商学）の学位を取得。

10月 小樽商科大学商学部教授。

1992年（平成4年）45歳

5月 小樽商科大学短期大学部部長（1996年3月まで）。

1995年（平成7年）48歳

9月11日 父善四郎死亡。

1996年（平成8年）49歳

5月 日本会計研究学会北海道部会部会長（2000年5月まで）。

11月 小樽市水道料金等審議会委員（1996年12月まで）。

1998年（平成10年）51歳

4月 小樽商科大学商学科長（1999年3月まで）。

1999年（平成11年）52歳

7月 国際会計研究学会理事（2005年8月まで）。

2002年（平成14年）55歳

5月 小樽市上下水道事業経営懇話会委員（2010年3月まで）。

2003年（平成15年）56歳

11月 小樽市廃棄物減量等推進審議会委員（2004年2月まで）。

2004年（平成16年）57歳

4月 小樽商科大学附属図書館長（2008年3月まで）。

2008年（平成20年）61歳

4月 小樽商科大学大学院商学研究科現代商学専攻長（2010年3月まで）。

2010年（平成22年）63歳

2月2日 最終講義「明治6年に出版された三冊の簿記書」を行なう。

3月 小樽商科大学を定年退職。

4月 札幌学院大学経営学部会計ファイナンス学科教授。

4月7日 小樽商科大学名誉教授。

渡邊和夫名誉教授研究業績

1971年（昭和46年）

3月 「リトルトンの原価主義思考に関する考察」（修士論文）。

1974年（昭和49年）

10月 「リトルトンにおける価格の意味」『商学討究』第25巻第1・2合併号。

1975年（昭和50年）

3月 「リトルトンの配当可能利益問題」『商学討究』第25巻第4号。

1976年（昭和51年）

3月 「リトルトンの利益概念—1920—30年代の諸論文を中心として—」
『商学討究』第26巻第4号。

1977年（昭和52年）

10月 「1920年代のリトルトン」『商学討究』第28巻第2号。

1979年（昭和54年）

12月 「リトルトンと後入先出法」『商学討究』第30巻第3号。

1982年（昭和57年）

1月 「リトルトン初期会計学説の特徴」『商学討究』第32巻第3号。

4月 （共訳）「会計学とその境界領域」（S.C.ユー著，久野光朗監訳
『S.C.ユー会計理論の構造—認識論と方法論—』同文館）。

5月 「リトルトンにおける理論と実務」『産業経理』第42巻第4号。

1983年（昭和58年）

4月 「リトルトンの会計理論の構造」（染谷恭次郎還暦記念会編『財務会計の基礎と展開』中央経済社）。

6月 「リトルトンの会計教育論」『商学討究』第34巻第1号。

1985年（昭和60年）

4月 「安平昭二『簿記要論（改訂版）』の検討」（久野光朗「共同研究 大学レベルの簿記テキストの検討」『産業経理』第45巻第1号）。

- 7月 「Ananias Chares Littleton 年譜」『商学討究』第36巻第1号。
- 1986年（昭和61年）
- 3月 「負債—とくに負債性引当金—」「株式会社簿記特論（その1）—繰延資産と社債—」「株式会社簿記特論（その2）—資本勘定と法人税等—」（久野光朗編著『簿記論講義』同文館）。
- 1987年（昭和62年）
- 3月 「負債—とくに負債性引当金—」「株式会社簿記特論（その1）—繰延資産と社債—」「株式会社簿記特論（その2）—資本勘定と法人税等—」（久野光朗編著『簿記論演習』同文館）。
- 4月 「リトルトン『会計発達史』第二部の成立事情」『産業経理』第47巻第1号。
- 1988年（昭和63年）
- 3月 「リトルトン＝チェンバース論争の現代的意義」『商学討究』第38巻第3・4合併号。
- 1989年（昭和64年・平成元年）
- 5月 「損益の計算」「財務諸表」（小川洵・小澤康人編著『会計学の基礎』創成社）。
- 1990年（平成2年）
- 3月 「リトルトン晩年の会計思想」『会計史学会年報』第8号。
- 1991年（平成3年）
- 10月 「リトルトン会計思想の歴史的展開」（博士論文）。
- 12月 「コーラーの取得原価主義会計論」『商学討究』第42巻第2・3合併号。
- 1992年（平成4年）
- 8月 『リトルトン会計思想の歴史的展開』（同文館）。
- 1993年（平成5年）
- 5月 「学説研究の意義—リトルトンの場合—」『JICPA ジャーナル』第5巻第5号。

1994年（平成6年）

- 1月 （山田勲氏との共同論文）「アメリカにおける会計の歴史的展開」（染谷恭次郎先生古希記念論文集編集委員会編『国際化時代と会計』中央経済社）。
- 2月 「dependent company」など約30項目の執筆（新井清光編『英和会計経理用語辞典』中央経済社）。
- 3月 「40年前の会計原則論—リトルトンとコーラー—」『会計史学会年報』第12号。
- 4月 「損益計算」（染谷恭次郎編著『新簿記検定1級会計学』税務経理協会）。
- 7月 「染谷恭次郎『改訂増補版』現代財務会計』の検討」『産業経理』第54巻第2号。

1995年（平成7年）

- 1月 「コーラー『会計学辞典』の意義と変遷」『商学討究』第45巻第3号。
- 10月 『財務諸表論の基礎』（新井清光監修「現代会計学の基礎」第3巻）（税務経理協会）。

1996年（平成8年）

- 11月 「コーラー『会計学辞典』の成立前史」『会計』第150巻第5号。

1997年（平成9年）

- 5月 （共訳）「イタリアにおける財務報告の歴史」（P.ワルトン編著，久野光朗監訳『欧州比較国際会計史論』同文館）。
- 9月 （書評）「染谷恭次郎著『ある会計学者の軌跡—ひとつの会計学史—』」『税経セミナー』第42巻第14号。

1998年（平成10年）

- 3月 「剰余金概念の再検討」『商学討究』第48巻第4号。
- 11月 『財務諸表論の基礎（改訂版）』（税務経理協会）。

2000年（平成12年）

- 2月 「連結財務諸表制度の形成と展開」『商学討究』第50巻第2・3合併号。
- 4月 「負債—とくに負債性引当金—」『株式会社簿記特論（その1）—繰

延資産と社債—」 「株式会社簿記特論（その2）—資本勘定と法人税等—」（久野光朗編著『簿記論テキスト』同文館）。

4月 「負債—とくに負債性引当金—」 「株式会社簿記特論（その1）—繰延資産と社債—」 「株式会社簿記特論（その2）—資本勘定と法人税等—」（久野光朗編著『簿記論問題集』同文館）。

11月 『財務諸表論の基礎（三訂版）』（税務経理協会）。

2001年（平成13年）

1月 「引当金会計の変遷(1)」 『商学討究』 第51巻第2・3合併号。

3月 「引当金会計の変遷(2)」 『商学討究』 第51巻第4号。

4月 「損益の計算」「キャッシュ・フローの計算方法」「財務諸表」（小川洵・小澤康人編著『会計学の基礎（新訂版）』創成社）。

10月 「貸借対照表の本質」「税経セミナー」 第46巻第15号。

2002年（平成14年）

3月 「戦後の繰延資産会計」 『商学討究』 第52巻第4号。

3月 「独立行政法人会計基準の特色」 『会計検査研究』 第25号。

7月 「戦前の繰延資産会計」（現代会計研究会編『現代会計研究（染谷恭次郎博士追悼論文集）』白桃書房）。

12月 「資産評価規定の変遷とその背景(1)」 『商学討究』 第53巻第2・3合併号。

2003年（平成15年）

2月 『財務諸表論の基礎（四訂版）』（税務経理協会）。

3月 “Characteristics of Accounting Standards for Independent Administrative Institutions,” *Government Auditing Review*, Volume 10.

3月 「資産評価規定の変遷とその背景(2)」 『商学討究』 第53巻第4号。

3月 「繰延資産会計と引当金会計の変遷過程に見られる特徴」 『会計史学会年報（2002年度）』 第21号。

7月 「資産評価規定の変遷とその背景(3)」 『商学討究』 第54巻第1号。

12月 「戦前における財務諸表体系の変遷」 『商学討究』 第54巻第2・3合併号。

2004年（平成16年）

- 3月 「戦後における財務諸表体系の変遷」『商学討究』第54巻第4号。
- 7月 「会計基準の変遷(1) —戦前の会計基準—」『商学討究』第55巻第1号。
- 11月 「金銭債権・債務」「棚卸資産」『税経セミナー』第49巻第16号。
- 12月 「会計基準の変遷(2) —「企業会計原則」の展開—」『商学討究』第55巻第2・3合併号。

2005年（平成17年）

- 3月 「会計基準の変遷(3) —個別会計基準の拡大—」『商学討究』第55巻第4号。
- 7月 「戦前の会計監査」『商学討究』第56巻第1号。
- 12月 『財務諸表論の基礎（五訂版）』（税務経理協会）。
- 12月 「戦後の会計監査」『商学討究』第56巻第2・3合併号。

2006年（平成18年）

- 7月 「財務会計の構成要素とその起源」『商学討究』第57巻第1号。

2007年（平成19年）

- 3月 『財務諸表論の基礎（六訂版）』（税務経理協会）。
- 3月 「変遷論の視点からみた会社法会計の特色」『商学討究』第57巻第4号。
- 9月 「日本の財務会計制度の変遷」『月刊資本市場』第265号。
- 11月 『財務会計変遷論』（同文館）。
- 12月 「負債—とくに負債性引当金—」「株式会社簿記特論（その1）—繰延資産と社債—」「株式会社簿記特論（その2）—純資産と法人税等—」（久野光朗編著『新版簿記論テキスト』同文館）。

2008年（平成20年）

- 6月 『財務諸表論の基礎（七訂版）』（税務経理協会）。

2009年（平成21年）

- 3月 「明治6年の会計事情」『会計史学会年報（2008年度）』第27号。
- 8月 「福沢諭吉と『帳合之法』」『札幌学院大学経営論集』第1号。
- 12月 「加藤斌と『商家必用』」『商学討究』第60巻第2・3合併号。